

看護師への期待－緑内障の見え方と治療法を理解する

山本哲也先生(海谷眼科)

1979年 東京大学 医学部 卒業
1985年 山梨医科大学 眼科 講師
1988-1990年 文部省在外研究員
(米国 Michigan 大学 Kellogg Eye Center)
1991年 岐阜大学 医学部 眼科 講師
1996年 岐阜大学 医学部 眼科 助教授
2000年 岐阜大学 医学部 眼科 教授
2020年 医療法人社団海仁 海谷眼科 副院長
岩田和雄記念 海仁緑内障センター 担当医
現在に至る

緑内障患者の多くは短時間接する限りでは目が普通に見えているように思える。初期例は確かにそうである。しかしながら、中期以降例では実際には生活に不自由を感じていることはしばしばである。ましてや既に視機能に大きな障害を有している患者では、Quality of Vision の低下がその方の生き方を制限する最大の要因となっていることが多い。今一つ忘れてはいけないことは、緑内障で失われた視機能が回復しないことに起因する患者の絶望感と将来への強い不安感である。緑内障の医療と福祉に携わるすべての関係者にはこうした疾患特性に即した対応が求められる。特に、患者に接する機会の多い看護師には、患者からも医師からも期待が大きい。

本講演では、眼科診療に従事する看護師を主な対象として、緑内障に関して解説したい。まず、緑内障の基本的な事項を復習する。また、緑内障患者の見え方とその進行に関して、緑内障の視野異常、実際の見え方、見にくさの進行、緑内障患者の自動車運転、視覚障害認定について解説する。さらに、現在と将来の緑内障の治療に関して、薬物治療、手術、神経保護治療について私見を含めて説明する。